

令和3年度

消防本部 総務課の方針書

組織名	消防本部 総務課
所属長名	熊谷 浩

1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術及び資機材を最大限に活用し、市民の負託にこたえる

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、職員の知識技術の向上
- 2、業務充実に向けて提案された意見の反映
- 3、消防団との連携

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、人材育成と健康支援
- 2、職員提案の実現
- 3、消防団活動支援

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	人材育成と健康支援
	取組内容	1、資格取得の推進と研修支援 2、職員の健康管理
(2)	実現したい成果	職員提案の実現
	取組内容	1、意見発表会で提案された意見の実現 2、アイデア提案の実現
(3)	実現したい成果	消防団活動支援
	取組内容	1、消防団事務の確実な遂行 2、現場活動資機材及び個人装備の充実 3、地域防災の充実

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 人材育成と健康支援

- ・資格取得は小型クレーン2名、玉掛免許2名、潜水士2名、大型自動車免許2名が取得。
- ・消防学校関連は初任教育3名、幹部科2名、警防課2名、消防大学校1名、救急救命研修所1名が修了。
- ・職員健康診断は9月30日をもって全職員が受診。
- ・職員のハラスメントアンケート結果で被害にあったとされる回答が職員全体の10%であった。

### (2) 職員提案の実現

- ・実現に向けて各関係部署に調整者・助言者を選定し意見者の後押しを行った。

### (3) 消防団活動支援

- ・ミスのない消防団事務。
- ・小型ポンプ付きの積載車両4台、積載車両1台の計5台の契約完了。
- ・個人装備の長くつ750足の契約完了。
- ・「消防団協力事業所」が62事業所、「消防団応援の店」が1店舗増の14店舗。
- ・災害出動報酬の見直しに向けた取り組み。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 人材育成と健康支援

- ・引き続き消防学校や各種研修支援を行う。
- ・健康診断終了者の中で再検査通知の職員を対象に健康を害さないよう再検査を促す。
- ・ハラスメント防止に向けて、消防本部が発行している「ハラスメント防止に関する方針」の周知とハラスメント防止講習会を実施する。

### (2) 職員提案の実現

- ・実現に向けて、更なる後押しと計画管理を促す。

### (3) 消防団活動支援

- ・消防団事務のミスゼロの継続。
- ・契約完了の資機材・装備品の確実な納品。
- ・「消防団協力事業所」、「消防団応援の店」のPRの強化。
- ・来年度の実現に向けて、災害出動報酬の額を決定する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 人材育成と健康支援

- ・助成金等の公費を使用する資格取得は9名が完了。
- ・県消防学校、消防大学校、救急救命研修所等へ30名を派遣した。来年度も計画どおり派遣し職員のスキルアップに努める。
- ・職員健康診断の受診率は100%、再検査も対象者は受診している。総務課として職員の健康管理の後押しを引き続き行う。
- ・ハラスメント防止に関する方針書の周知とハラスメント防止講習会を実施したが、引き続きハラスメントの撲滅に取り組む。

### (2) 職員提案の実現

- ・実現は意見発表会、アイデア提案ともに1件であったが、次年度に向けては自発性を尊重し個人目標に掲げてもらうなど、計画的に進める必要がある。

### (3) 消防団活動支援

- ・消防団事務はミスゼロで業務を遂行中である。
- ・契約完了の資機材(積載車・小型ポンプ)・装備品(長くつ・絆纏)の確実な納品が完了している。今後も現場で活躍する消防団員の装備充実を図る必要がある。
- ・消防団協力事業所(62事業所)、消防団応援の店(14店舗)。
- ・条例改正で令和4年度から災害出動報酬の増額が確定した。今後も消防団員の処遇改善に取り組む必要がある。

# 令和3年度

## 消防本部 予防課の方針書

組織名	消防本部 予防課
所属長名	中川原 宏

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術及び資機材を最大限に活用し、市民の負託にこたえる

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、防火対象物の消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置率向上
- 3、事務効率の向上

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、事務効率化と職員能力の向上

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防設備違反の是正
	取組内容	1、防火対象物重大違反の早期の把握と違反処理の執行により安全安心なまちづくり 2、小規模飲食店で消火器未設置(違反ゼロ)是正指導
(2)	実現したい成果	住宅用火災警報器の設置推進
	取組内容	1、住宅用火災警報器未設置世帯への再調査し設置率の向上により安全安心なまちづくり 2、住宅用火災警報器設置世帯への機器維持管理広報
(3)	実現したい成果	事務の効率化と職員の能力向上
	取組内容	1、事務処理運用基準等の完結 2、事務の効率化を目指した職員に対する階級別(年代別)の研修会の実施

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 消防設備違反の是正

- ・重大違反は3月末現在21施設あり8施設改善、新たに4施設増加し1施設改善(合計9施設改善)。
- ・小規模飲食店の消火器未設置違反は3月末現在5店舗あり、4店舗改善。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・未回答世帯の再調査については687世帯から回答をあり、3地区(平鹿、雄物川、山内)が調査が終了。
- ・いきいきサロンにて住宅用火災警報器の設置要望、設置世帯へ機器の維持管理について6回出向100名へ説明を実施、広報として市報へ1回掲載する。

### (3) 事務の効率化と職員の能力の向上

- ・建築確認申請、消防設備点検報告、防火管理者の受講受付は事務処理を各分署に移管。
- ・消防設備検査については分署で検査できるものは単独で実施。
- ・危険物施設、設備検査を合同で実施した場合に若年、検査経験の少ない職員に対し検査方法を15回指導。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反16施設(公表2施設含む)については、ねばり強く指導し、違反を解消してくれない施設は違反処理の執行。
- ・小規模飲食店の消火器未設置残り1店舗に対して是正を目指し指導していく。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・秋田県の新型コロナウイルスレベル上昇により中断している座談会、住宅火災警報器設置未回答1600世帯の再調査を実施。
- ・住宅用火災警報器の未設置世帯へ設置要望、設置世帯の維持管理の広報活動を感染症の状況を見極めながら実施。

### (3) 事務の効率化と職員の能力向上

- ・危険物施設、消防設備検査において現場での指導の継続、職場内の勉強会(研修会)を立案し実施。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反が29施設の内、19施設が改善となった。残り10施設に関しては粘り強く指導、違反を解消しない施設に関しては今後も違反処理を執行していく。
- ・小規模飲食店の消火器未設置に関しては改善となり、解消となっている。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・住宅用火災警報器の未回答世帯の再調査は、1195世帯実施、秋田県の新型コロナウイルスレベル上昇により中断しなければならず、感染状況を見極めながら、次年度1600世帯を実施していく。
- 防火座談会においても10回出向133名に機器の維持管理を説明したが、同様に中断することが多く、次年度も感染症の状況を見極めながら実施していく。

### (3) 事務の効率化と職員の能力向上

- ・建築確認申請、消防設備点検報告、防火管理者講習受講受付等、分署に事務を移管したが今年度は問題なく終了したが、次年度も確実に事務処理ができるように継続指導していく。
- ・職員の研修については、予防関係の設備検査を現場で指導した。また、職場内の勉強会は年代別に各署で実施した。次年度においても通年でテーマ別で実施していき能力向上を目指していく。

# 令和3年度

## 消防本部 警防課の方針書

組織名	消防本部 警防課
所属長名	中川原 一智

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術及び資機材を最大限に活用し、市民の負託にこたえる

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全管理体制の強化と人材育成
- 2、車両及び資機材等の適正な維持管理
- 3、消防団との連携

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、組織的な災害対応能力の向上
- 2、計画的な教育訓練による人材育成と安全管理
- 3、車両更新など計画事業の完全実施

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	組織的な災害対応能力の向上
	取組内容	1、特定地域警防計画に基づく各種訓練の実施 2、緊急消防援助隊出動に向けた体制の維持管理 3、消防団との連携訓練を実施し安全安心な地域づくりに貢献する
(2)	実現したい成果	計画的な教育訓練による人材育成と安全管理
	取組内容	1、現場の安全管理体制強化に向けた指揮及び各種訓練の実施 2、機関員の計画的育成と資格保有者の技能維持及び向上訓練の実施 3、特別救助隊員資格保有者の技能向上訓練の実施
(3)	実現したい成果	車両更新など計画事業の完全実施
	取組内容	1、消防署、消防団の車両、資機材等の更新及び維持管理 2、消防水利の計画的な整備と維持管理

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 組織的な災害対応能力の向上
  - ・建物火災を想定し、管内各地域ごとの出動隊による火災防御訓練を実施
  - ・緊急消防援助隊出動登録車両である救助工作車の隊員42名の技術強化訓練を実施
  - ・各地域消防支団との合同放水訓練を実施
- (2) 計画的な教育訓練による人材育成と安全管理
  - ・特別救助隊員42名の救助資機材取扱い習熟訓練を実施
  - ・はしご車機関員28名の運用習熟訓練を実施
- (3) 車両更新など計画事業の完全実施
  - ・横手タンク1号車、南救急2号車、団小型ポンプ付軽積載車4台、団軽積載車1台、団ポンプ置場3棟の契約完了
  - ・横手、雄物川、十文字地区に建設する耐震性防火貯水槽3基の契約完了、うち、十文字地区の1基完成。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 組織的な災害対応能力の向上
  - ・大森支団との車両破壊訓練、十文字支団とのポンプ取扱い訓練の実施
- (2) 計画的な教育訓練による人材育成と安全管理
  - ・現場の安全管理体制強化に向けた各種訓練の実施
- (3) 車両更新など計画事業の完全実施
  - ・無水利地区への計画的な地上消火栓の設置

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 組織的な災害対応能力の向上
  - ・建物火災を想定した管内各地域ごとの火災防御訓練を実施し、各隊の連携強化を図った。
  - ・緊急消防援助隊出動に向けた技術強化訓練と、実装備を使用した野営訓練を実施し能力向上を図った。
  - ・各地域消防支団との合同放水訓練のほか、大森支団との合同車両破壊訓練、十文字支団との小型ポンプ取扱い訓練や、雄物川、大森、大雄支団を対象とした救命ボート取扱い研修を実施し連携強化を図った。次年度は合同の水難救助訓練も計画し、連携強化と能力向上を図っていく。
- (2) 計画的な教育訓練による人材育成と安全管理
  - ・特別救助隊員の救助資機材取扱い習熟訓練、はしご車機関員の運用習熟訓練、小隊長級職員の指揮隊運用訓練を実施し、人材の育成と安全管理基盤の強化を図った。今後も継続的に教育訓練を実施していく。
- (3) 車両更新など計画事業の完全実施
  - ・横手タンク1号車、南救急2号車、団小型ポンプ付軽積載車4台、団軽積載車1台の車両更新や、団ポンプ置場3棟建設など全ての事業が完了し運用を開始している。次年度も資材の高騰や物品調達の遅れなど、予想される状況に適切に対応し事業を進める。
  - ・耐震性防火貯水槽は十文字地区1基が完成し、地上消火栓は横手地区、大雄地区にそれぞれ1基の設置を完了している。次年度は耐震性防火貯水槽新設2基と、地上消火栓も併せて着実に事業を進めていく。

# 令和3年度

## 消防本部 救急課の方針書

組織名	消防本部 救急課
所属長名	松井 洋悦

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全・確実・迅速な救急医療サービスの提供

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、救急隊員教育体制の見直し
- 2、救急資機材の維持管理体制
- 3、新型コロナウイルス感染症対策

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、救急救命士を含む救急隊員の教育指導の充実
- 2、救急資機材の適切な維持管理
- 3、コロナ禍での安全な救急活動

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	救急救命士を含む救急隊員の教育指導の充実
	取組内容	1、救急隊員研修計画に基づく研修 2、効果的な新任救命士認定研修の実施
(2)	実現したい成果	救急資機材の適切な維持管理
	取組内容	1、救急車両、資機材の更新 2、適切な救急資機材在庫管理の徹底
(3)	実現したい成果	コロナ禍での安全な救急活動
	取組内容	1、救急隊員のワクチン接種に係る調整 2、感染者搬送の関係各機関との連絡調整 3、救急隊、消防隊の感染防止対策の徹底 4、児童生徒へ応急手当講習の普及啓発

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 救急救命士を含む救急隊員の教育実習の充実
  - ・救急隊員研修計画の見直しを行い、計画に基づいた研修を実施している。
  - ・新任救命士運用開始要領を改訂し、下期から訓練を開始する。
- (2) 救急資機材の適切な維持管理
  - ・南分署高規格救急車の更新は、順調に推移しており、11月上旬に納車予定。
  - ・救急資機材の在庫管理は、毎月1回資機材調査を実施し、適切な管理が出来ている。
- (3) コロナ禍での安全な救急活動
  - ・救急隊員等のワクチン接種に係る調整を行った。
  - ・新型コロナウイルス関係機関との連絡調整を行い、救急隊員等の感染防止対策を徹底した。
  - ・教育委員会と連携して、小・中学校のタブレットを活用しての応急手当普及啓発を企画し、児童生徒向け応急手当普及ビデオを作成中。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 救急救命士を含む救急隊員の教育実習の充実
  - ・救急隊員研修計画通りではあるが、下期に訓練や研修が多くなる。指導的立場の救急救命士を中心として、救急隊員、救急救命士の能力向上に努める。
- (2) 救急資機材の適切な維持管理
  - ・救急車の納車まで気を抜くことなく事務調整を行うとともに、納車後の資機材訓練、車両運用訓練を行い、納車に係る事故防止に努める。
  - ・感染用資機材が増えている中で、現在は適切な管理が出来ている。今後も資機材調査の徹底を図り適正管理を維持する。
- (3) コロナ禍での安全な救急活動
  - ・コロナ対策は、当消防本部策定済の行動計画・業務継続計画のもとに業務を実施して行くものだが、国や県、市からの情報や関係機関との連絡や協議を行い、今後の感染対策として行く。
  - ・小中学生のタブレット活用に関しては、応急手当普及啓発以外にも、防災教育などにも有効活用の可能性があると感じている。所管している教育委員会と連携し協議する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 救急救命士を含む救急隊員の教育実習の充実
  - ・今年度の救急隊員研修は、全隊員が回数、時間ともに目標を達成した。次年度は今年の研修内容を再検討し、それに基づいた訓練実施で救急隊員の能力向上に努める。
- (2) 救急資機材の適切な維持管理
  - ・令和3年11月に計画通り南分署救急車が更新配備となった。令和4年度も横手消防署救急車の更新を予定しており、今年度を参考にしながら適切な事業遂行とする。
  - ・感染用資器材も充足しており、現在は適切な管理が出来ている。今後も資機材調査の徹底を図り適正管理を維持する。
- (3) コロナ禍での安全な救急活動
  - ・コロナ対策は、当消防本部策定済の行動計画・業務継続計画のもとに業務を実施して行くが、国や県、市からの情報や関係機関との連絡や協議を行い、今後の感染対策とする。
  - ・小中学生のタブレット活用に関しては、応急手当普及啓発以外にも、防災教育などにも有効活用の可能性があると感じている。所管している教育委員会と連携し進めて行く。

# 令和3年度

## 消防本部 通信指令室の方針書

組織名	消防本部 通信指令室
所属長名	高田 俊之

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

通信指令員の役割と機器の性能を最大限に発揮し、チーム一丸で迅速、的確なシステム運用と情報共有に努め、消防救急活動の充実を図る

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、災害通報対応とシステム運用技術の向上
- 2、働きやすい職場環境の推進
- 3、通信指令施設の安定稼働と充実強化
- 4、多様化する災害通報等への対応

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、通信指令員の教育体制の充実
- 2、職員連携による業務の補完とストレスケアの推進
- 3、高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新に向けた準備の推進
- 4、わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	通信指令員の教育体制の充実と職員連携の推進
	取組内容	1、システム停止訓練や外国人対応など各種訓練の計画実施によるシステムの精通と対応力向上 2、通報者への応急手当口頭指導技術の向上 3、消防署通信指令補助員との連携による業務の補完とストレスチェック体制の推進
(2)	実現したい成果	高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新準備の推進
	取組内容	1、通信指令システムや消防無線システムの適切な保守管理 2、高機能消防指令センター更新に向けた方針の決定 3、地図情報などシステム情報の適切なアップデート
(3)	実現したい成果	わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
	取組内容	1、高齢者や外国人など市民に対するわかりやすい119番通報のかけ方の啓発 2、障がい者に対する緊急通報システムの啓発

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 通信指令員の教育体制の充実と職員連携の推進
  - ・各種計画訓練の毎日実施。
  - ・市民の心肺蘇生実施率65%、市民蘇生3件。
  - ・消防署通信補助員との連携日数71日、隔日勤務職員の夏季・冬季休暇100%取得。
  - ・対話によるストレスチェックの実施。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新準備の推進
  - ・無線システム法定検査、指令・無線システムの年次点検、分署指令端末装置の電源装置更新契約の実施。
  - ・各システムの障害対応計画の整理を実施。
  - ・更新の方針策定に係るプロジェクトチームの立ち上げ、メーカー協議・他消防本部視察を実施、チームメンバーによる部内方針(たたき台)を策定。
  - ・住宅調査等による地図情報の更新。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・高齢者に対する119番通報の広報のため、いきいきサロンに出向6回、100名受講(9月はコロナ感染症の影響で中止)。
  - ・119番通報時の多言語通訳サービスについて、外国人向けの案内パンフレット(英語版、中国語繁体字版・簡体字版、韓国語版)を作成し、ホームページ掲載のほか、国保市民課・市民サービス課窓口、日本語教室、市内観光拠点、ホテルに配置し、外国人案内での活用を依頼。
  - ・NET119緊急通報システムについて、新規障がい者手帳交付者等に希望調査実施、希望者への個別説明により5名が新規登録(延べ登録者数9名)。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 通信指令員の教育体制の充実と職員連携の推進
  - ・各種訓練、救急救命士による応急手当口頭指導教育の継続。
  - ・外国人参加型の外国人対応訓練の実施。
  - ・県主催の通信指令員研修への指導者派遣・受講参加および職員へのフィードバック。
  - ・職員連携による適切な年次休暇の取得、職員間の良いコミュニケーションによりストレスケアを図り、職務の充実につなげる。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新準備の推進
  - ・各システムの適切な保守管理と運用の継続。
  - ・更新の方針決定に向け、関係部局との協議を実施し、年度内に決定。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・いきいきサロンによる高齢者への広報は、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら可能な限り実施。
  - ・市報、ホームページ等を活用した広報の継続。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 通信指令員の教育体制の充実と職員連携の推進
  - ・各種訓練の毎日実施、所属救急救命士のOJTによる教育指導、外国人対応要領の共有、県主催の通信指令員研修修了者による教育指導などを通じて、応急手当口頭指導をはじめ多様化する災害対応要領のレベルアップにつながっている。
  - ・消防署通信指令員補助員の協力を得ながら年次休暇の取得(平均13日)にあたるなど、心身のリフレッシュを図ることにより、良い職務環境と職務の充実につながっている。
  - ・引き続き、良い職場環境を保ちながら教育指導を充実させ、適切な災害対応につなげていく必要がある。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新準備の推進
  - ・定期の自主点検、保守管理契約による障害対応、機器の更新、住宅調査による地図の更新などを通じて、各システムの適切な運用を継続したほか、障害発生時の対応計画についても整理し、各所属と一体的な対応につながっている。
  - ・指令センター更新向け、プロジェクトチームによる検討を重ね、部内の方針(たたき台)を策定し、関係部局と共有した。
  - ・引き続き、指令センターの更新時期、範囲など具体的な内容決定に向け、関係部局と連携して検討していく必要がある。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・高齢者が参加する「いきいきサロン」に出向し、わかりやすい119番通報について広報したほか(10回133名参加)、多言語通訳サービスの外国語パンフレットを作成し宿泊施設等に配置するなど119番通報にかかる啓発を推進した。
  - ・聴覚等の障がい者に対して提供しているNET119緊急通報サービスは、希望調査に基づく個別説明により、5名の新規登録につながっている。
  - ・引き続き、高齢者、障がい者、外国人など多様な119番通報について、わかりやすく通報要領を啓発し、円滑な通報につなげていく必要がある。

# 令和3年度

## 消防署の方針書

組織名	消防署
所属長名	鈴木 勉

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の信頼と期待に応える消防職員

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応能力の向上
- 2、公務災害や重大事故の撲滅
- 3、働きやすい執務環境の整備

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、安全確実な業務遂行
- 2、人材育成と働きやすい執務環境の整備
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全確実な業務遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底による公務災害や重大事故の根絶 2、専属指揮隊が常時運用できる体制の構築 3、心身の健康障害の予防推進(惨事ストレス対応、健康診断)
(2)	実現したい成果	人材育成と働きやすい執務環境の整備
	取組内容	1、若手職員の育成と中堅職員の指導能力の向上 2、公務員としての自覚保持と法令順守(ハラスメントなど不祥事の防止) 3、ワークライフバランスの実現(時間外勤務の縮減と年次休暇の取得) 4、挨拶の励行や整理整頓など、明るく、清潔で気持ち良い職場づくり
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、火災予防の推進(住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正) 2、消防団との連携体制の確立

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 安全確実な業務遂行

- ・公務災害の防止では、ミーティング等でヒヤリハット事例の共有や安全教育を行い職員の危険予知能力向上に努めた。また公務災害(1件)が発生したため、再発防止に向けた検討会を実施した。
- ・惨事ストレス対応では、対策要綱及びマニュアルに則りストレス対策を実施した。また健康診断は、予定していた職員全員の健康診断が終了した。

### (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備

- ・若手職員や中堅職員の育成のため、訓練月間予定表を作成し、各種訓練を140回実施した。また、救急隊員教育管理表に基づき、15分程度のミニ訓練を130回実施したほか、防災ヘリコプターとの合同訓練など大規模な訓練を5回実施した。
- ・不祥事の防止では、全国の不祥事事例を定期的に配信するとともに、ミーティング等で不祥事について考える機会を設け、公務員倫理の習熟に努めた。
- ・ワークライフバランスの実現では、所属を越えた人員調整などを行い、休暇の取得しやすい環境作りに努めた。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・住宅用火災警報器の普及啓発のため、横手地域677軒の住宅調査を実施した。また、98施設の防火対象物に対し立入検査を実施し、消防法令の違反是正を図った。
- ・消防団の放水技術の向上を図るため、横手支団の若手団員を対象とした放水訓練を2回実施した。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 安全確実な業務遂行

- ・公務災害は、ちょっとした不注意で発生している。個々の危険予知能力の向上はもちろんのこと、組織全体で安全管理を徹底し、再発防止に取り組む。
- ・今後も職員のストレスを未然に防止し、発生した際の対策を講じて惨事ストレス「ゼロ」を目指す。また、健康診断で再検査の通知を受けた職員に対し受診を促し、受診率の向上を図り、心身の健康管理に努める。

### (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備

- ・訓練計画を作成し各種訓練を継続するほか、合同訓練等を企画、実施し、更なる能力向上を図る。
- ・休暇取得に伴う人員補充(非番者による時間外勤務)が課題となる。所属を越えた人員調整を行い、休暇の取得と時間外勤務の縮減を図る。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・住宅用火災警報器の普及啓発では、コロナ感染症の拡大により9月から直接訪問の住宅調査は行っていない。設置率の向上を図るには、丁寧な説明が必要であり、直接訪問の住宅調査を実施し、住宅火災の未然防止に努める。
- ・コロナ感染症の影響により、消防団の訓練大会が2年続けて中止となった。その結果、放水訓練などが十分に行えず、消防団員の放水技術の低下が懸念される。下期は若手団員の教養訓練や機関員養成訓練、放水訓練などを実施予定。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 安全確実な業務遂行

- ・公務災害ゼロを目標としたが、上期3件、下期1件の合計4件の公務災害が発生した。けがの原因は、ちょっとした不注意によるものが多く、防げた事故が多かった。消防の業務上、ケガのリスクは付きまとうが、基本的な動作や操作を日頃から心掛けることでリスクは低減するものと考え。今後もヒヤリハット事例の共有や安全教育を行い危険予知能力の向上を図り、公務災害の防止に努める。
- ・惨事ストレスを発症した職員はいなかった。今後も職員のストレスを未然に防止し、発生した際のストレスケア対策を講じて行く。また、職員健康診断(人間ドック含む)は全員受診した。再検査の通知を受けた職員の受診率も向上しており、職員の心身の健康管理が図られた。

### (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備

- ・消防職員が酒気帯び運転で逮捕されるという大きな不祥事が発生した。市民の皆さんを裏切る行為であり、この現実をすべての職員が認識し信頼の回復に努める必要がある。職員一人一人が公務員としての自覚と消防職員としての誇りを持てるよう指導し、再発防止に努める。
- ・若手や中堅職員の育成の訓練では、年間を通し各種訓練を実施した。中でも火災防衛訓練(7回実施)は本番モードの隊編成で実施し、各小隊の連携体制の強化が図られた。今後も訓練を計画立案し、更なる能力向上に努める必要がある。
- ・年次休暇は取得できている。今後も人員調整など行いながらワークライフバランスの実現に努める。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・住宅用火災警報器の普及啓発では、1195世帯の住宅調査を実施し、設置率の向上を図った。また479事業所へ立入検査を行い、消防法令違反の是正を図り火災予防の推進に努めた。住宅調査では、まだ未回答世帯が1150世帯ほどあり、その調査完了が課題となる。今後も在宅率の高い土曜日、日曜日を中心に調査を実施し、住宅火災の未然防止に努める。
- ・消防団との合同訓練は、放水訓練や水防訓練、機関員講習など20回程実施し連携体制の強化を図った。コロナ感染症の影響により今年度も消防団の訓練大会が中止になるなど消防団員の放水技術の低下が懸念される。今後も若手団員の教養訓練や機関員養成訓練、放水訓練など各種訓練を実施し、消防団との連携体制の構築に努める。

# 令和3年度

## 消防署 南分署の方針書

組織名	消防署 南分署
所属長名	菅原 政人

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実、迅速な業務遂行により、市民の信頼と期待に応える

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応能力向上のための人材育成
- 2、公務災害、重大事故を根絶するための安全管理体制の強化

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、安全確実な業務の遂行
- 2、能力向上のための人材育成
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知による公務災害の根絶 2、確実な車両運用による無事故、無違反 3、職務上抱える虞のある惨事ストレスの把握と対応
(2)	実現したい成果	能力向上のための人材育成
	取組内容	1、若手職員の育成と中堅職員の判断力、対応力、指導力の向上 2、機関員の育成と車両、資機材の適切な管理運用 3、公務員としての自覚保持と法令順守(ハラスメント等の不祥事防止) 4、職場環境の安全と質の向上を図るため5S励行・・・整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣づけ)
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防法令の重大違反防火対象物を是正 2、住民の防災意識向上と住宅用火災警報器の普及啓発 3、消防団、地域局との連携体制の確立と強化

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 安全確実な業務の遂行

- ・公務災害2件。
- ・訓練時における安全管理事項の伝達やヒヤリハット事例を共有することで、公用車の無事故、無違反を継続中。
- ・事案完了後に隊ミーティング等を行うとともに、日常的に声掛けを行い、惨事ストレスの発見、緩和に努めている。

### (2) 能力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と中堅職員の判断力、対応力、指導力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき121回訓練実施。
- ・機関員の育成は、CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員について3名が取得済み。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用に努めている。
- ・朝のミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を設け、現時点でハラスメントは確認されていない。
- ・職場環境の安全と質の向上を図るため5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)励行中。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・重大違反対象物の消防法令違反、2対象物。(昨年度から継続)
- ・消防団、地域局との連携強化について、昨年度に引き続き今年度もコロナウイルスの影響があり各地区防災訓練等の機会を捉えての連携は図られていないが、災害現場において連携した活動を行うことで連携強化に努めている。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 安全確実な業務の遂行

- ・公務災害の再発防止に向けた安全管理の再徹底を行い訓練を実施する。
- ・公用車の無事故、無違反について、冬期が近づいていることから、今まで以上に慎重な車両運用を行えるよう教育と訓練を継続する。
- ・惨事ストレス対策について、早期発見と緩和が行えるようにミーティングと情報共有を継続して行う。

### (2) 能力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と中堅職員の判断力、対応力、指導力の向上を図るため、今後も継続して訓練を実施する。
- ・機関員の育成について、今後、A級(大型車)機関員1名、B級(中型車)機関員1名、C級(普通車)機関員1名を養成する予定。  
また、取得後においても車両、資機材の適切な管理運用に努めるため、訓練を継続する。
- ・ハラスメントについて、話し合いの機会を多く設けることで防止を図る。
- ・職場環境の安全と質の向上を図るため、今後も5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を継続する。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・火災による被害軽減を図るため、今後も違反対象物への指導を継続する。
- ・消防団、地域局との連携強化を図るため、今後も密な連絡体制を維持する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 安全確実な業務の遂行

- ・訓練時における安全管理事項の伝達やヒヤリハット事例を共有してきたが、公務災害が2件発生した。訓練後の資器材撤収中等、いずれも訓練時以外の公務災害であった。今後は、訓練時以外についても訓練中同様に安全管理を徹底し、注意事項を伝達するとともに、事故事例を共有することで、公務災害の根絶を図る。
- ・公用車の無事故、交通違反ゼロを継続中。今後も公用車の無事故、無違反について、今まで以上に慎重な車両運用を行うよう教育と訓練を継続する。
- ・出勤後に隊ミーティングを行うとともに、日常的に声掛けを行うことで惨事ストレスの発見、緩和に努めている。惨事ストレスの早期発見と早期対応を図れるようミーティングと情報共有を継続して行う。

### (2) 能力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき199回訓練実施。今後も、若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、継続して訓練を実施する。
- ・機関員の資格取得について、CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員3名取得、C級機関員1名取得。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用にあたる。
- ・消防職員としての自覚を保持しハラスメント防止に努めるため、朝のミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を設けており、現時点でハラスメントは確認されていない。ハラスメント防止について、今後も話し合いの機会を多く設けることで防止を図る。
- ・職場環境の安全と質の向上を図るため5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を励行。今後も継続していく。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・火災による被害軽減を図るため重大違反対象物の消防法令違反について、今後も指導を継続する。
- ・消防団、地域局との連携強化について、各種災害現場において連携を図ることで連携強化に努めている。コロナ禍による各種行事の中止等、以前のような訓練機会を設けることは少なくなってしまったが、限られた機会であるからこそ充実した内容の訓練を行うことができた。今後も消防団、地域局との連携強化を図るため、密な連絡体制を維持する。

# 令和3年度

## 消防署 西分署の方針書

組織名	消防署 西分署
所属長名	木島 秀明

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実な災害対応で被害の軽減を図り市民の安全を護る

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1 公務災害や重大事故を根絶するための安全管理体制強化
- 2 現場対応能力向上のための人材育成

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1 消防力向上のための人材育成
- 2 安全確実な業務の遂行
- 3 災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防力向上のための人材育成
	取組内容	1 若手職員の現場対応力向上と隊長級職員の指導力向上 2 適正な車両運用、資器材管理ができる機関員の育成 3 消防職員としての自覚保持とハラスメントの防止
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1 安全管理の徹底と危険予知能力向上で公務災害を根絶 2 重大事故防止のため安全、確実な車両運用の徹底 3 職務遂行上抱える虞のある惨事ストレスの早期把握と対応
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1 消防団、地域局との連携強化 2 火災被害の軽減を図るため住宅用火災警報器の設置率向上と消防用設備等の違反是正

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 消防力向上のための人材育成

- ・若手職員の現場対応力と、隊長級職員の指導力向上を図るため、訓練安全計画に基づき178回訓練実施。
- ・適正な車両運用と資器材管理ができる機関員を育成するため、走行訓練32回、放水訓練24回、資器材点検操作訓練48回実施。併せて、A級大型機関員1名、B級中型機関員2名を育成するため訓練を継続中である。
- ・毎朝のミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を設けることで、消防職員としての自覚を保持するとともにハラスメントの防止を図っている。現時点でハラスメントは確認されていない。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・訓練前の注意事項伝達、訓練中の安全管理事項伝達、訓練後の検討事項伝達を行うことにより、公務災害ゼロを継続中。
- ・ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有、検討するとともに、訓練を継続することにより車両運用技能を高めることで、無事故、無違反を継続中。
- ・出動後に隊ミーティング等を行うとともに、日常的に声掛けを行うことで、惨事ストレスの早期把握、緩和を図っている。現時点で惨事ストレスを抱えている職員は確認されていない。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・雄物川、大森、大雄支団及び各地域局とともに水防講習会、放水訓練を実施し、災害時における連携の確認と強化を図っている。
- ・住宅火災警報器の設置について、雄物川地区の未設置及び未回答763世帯のうち6世帯を調査し5世帯の設置を確認、大森地区の未設置及び未回答502世帯のうち76世帯を調査し12世帯の設置を確認、大雄地区の未設置及び未回答174世帯のうち26世帯を調査し11世帯の設置を確認している。
- ・各家庭を訪問しての調査については現在、新型コロナウイルスの影響で自粛せざるを得ない状況となっている。
- ・消防用設備等の違反是正については、重大違反防火対象物の内、1件については是正済みである。残り4件についても違反是正に向けて対応中である。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 消防力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、今後も様々な状況を想定しての訓練を継続して実施する。同様に、適正な車両運用と資器材管理ができる機関員を育成するため訓練を継続し、トラブルに対応できる能力を向上させる。
- ・消防職員としての自覚保持とハラスメントを防止するため、ミーティング等の機会に話し合いの場を多く設けるとともに全国の事例について情報を共有することで、自覚の保持とハラスメントの防止を図る。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・訓練中に指摘した注意事項や事故事例を共有することで、危険に対するアンテナを高く持たせることで、公務災害ゼロを継続する。
- ・これから冬期を迎えることから、今まで以上に慎重な車両運用が行えるよう教育と訓練を継続し、公用車の無事故無違反ゼロを継続する。
- ・惨事ストレス対策について、早期発見と早期対応ができるよう、ミーティングと情報共有を継続して行う。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・消防団、地域局との連携強化を図るため、火災予防運動等の機会をとらえて、密な連絡体制を維持する。
- ・火災被害の軽減を図るため、違反对象物への指導を継続するとともに、新型コロナウイルスに伴う状況を考慮しつつ各家庭を訪問しての調査と設置指導を行うことで、住宅用火災警報器の設置率向上を図る。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 消防力向上のための人材育成

- ・若手職員の現場対応力向上と隊長級職員の指導力向上若手職員の現場対応力向上と隊長級職員の指導力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき合計305回の訓練実施した。  
今後も、若手職員の現場対応力向上と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、継続して訓練を実施する。
- ・適正な車両運用、資器材管理ができる機関員を育成するため、走行、放水、資器材点検操作訓練を合計171回実施。また、A級大型機関員1名、B級中型機関員2名が認定証を取得した。  
取得後も適正な車両運用、資器材管理ができる機関員を育成するため継続して訓練を行い、機関員としての技術の向上を図る。
- ・消防職員としての自覚保持とハラスメントを防止するため、ミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を多く設けるとともに、全国の事例について情報を共有し、自覚の保持とハラスメントの防止を図ったことで、ハラスメントは確認されていないが、酒気帯び運転に伴う不祥事が1件発生してしまった。不祥事の防止に向け全職員が一丸となって対応するとともに、職場においても機器による呼気検査を実施し事故防止を徹底する。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・訓練時における安全管理事項の伝達やヒヤリハット事例を共有することで、公務災害ゼロを継続中。今後も訓練において注意事項を伝達するとともに、事故事例を共有することで、公務災害ゼロを継続する。
- ・公用車の無事故、交通違反ゼロを継続中。今後も公用車の事故、違反を防止するため、今まで以上に慎重な車両運用を行うよう教育と訓練を継続する。
- ・出動後に隊ミーティングを行うとともに、日常的に声掛けを行うことで惨事ストレスの早期発見、緩和に努めた。現時点で惨事ストレスを抱えている職員は確認されていない。今後も惨事ストレスの早期発見と早期対応を図るためミーティングと情報共有を継続して行う。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・消防団、地域局との連携強化を図るため、雄物川、大森、大雄支団及び各地域局とともに水防講習会、放水訓練、救命ボート取扱講習を実施し、災害時における連携の確認と強化を図った。今後も消防団、地域局との連携強化を図るため、密な連絡体制を維持する。
- ・住宅用火災警報器の設置率向上については、新型コロナウイルスに伴う状況を考慮しつつ各家庭を訪問しての調査と設置指導を行わざるを得なかったため、数値としては横ばいの状態である。また、消防用設備等の違反是正については、重大違反防火対象物4件について違反是正に向けて対応中である。今後も火災による被害の軽減を図るため、指導を継続する。

# 令和3年度

## 消防署 平鹿分署の方針書

組織名	消防署 平鹿分署
所属長名	佐藤 正樹

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

危機管理を徹底し、安全確実な活動で市民の負託にこたえる

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
- 2、働きやすい執務環境の整備
- 3、南分署、西分署運用に伴う広域的な活動の強化と連携

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、多方面で活躍できる人材育成
- 2、働きやすい職場環境の構築と安全確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	多方面で活躍できる人材育成
	取組内容	1、若年職員の教育訓練、新規機関員養成 2、救急隊員のスキルアップ 3、新規配備車両、救助資器材の継続訓練で、能力を最大限に発揮する
(2)	実現したい成果	働きやすい職場環境の構築と安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底、職員間での情報共有の徹底 2、調査報告等の期限厳守 3、職員の健康管理、ハラスメント防止に努める
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、多様化、大規模化する自然災害への対応強化 2、無水利地区を中心とした、自然水利の再検証 3、関係機関と連携した住宅用火災警報器の普及啓発

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)多方面で活躍できる人材育成
  - ・今後機関員を目指す職員の教育として、農業用水路、敷地内防火水槽を使用した揚水訓練を実施。また、業務出向時や救急事案の引揚げ時などで、普通走行での運行訓練を実施した。
  - ・若年者教育として火災想定訓練、救助想定訓練、救急活動訓練、予防業務全般の座学など、月間予定以外にも機会を捉え実施した。
- (2)働きやすい職場環境の構築と安全確実な業務の遂行
  - ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを実施した。
  - ・仮想災害点を想定し、現場までのルート、走行に関する注意点の検討などを実施した。
  - ・期限のある調査報告事務の一覧表を作成し、全職員での情報共有を図りチェック体制を強化した。
  - ・交通事故防止のミーティングを実施し、安全運行・車両誘導訓練を強化した。
  - ・執務中のマスク着用を徹底し、受話器、ドアノブなど執務環境の定期的な消毒を実施した。
- (3)災害に強いまちづくり
  - ・火災多発期に警戒巡回及び焼却行為に対する指導を強化した。
  - ・大雨警戒時の巡回に、ため池を加えハザードマップを基に強化するとともに、保管土嚢を更新増設した。
  - ・自然水利の定期確認、公設水利の現状を関係機関と共有し、対応についての連携を強化した。
  - ・地域局、消防団、民生委員と連携し、住警器設置の広報と取り付けサポートを継続している。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)多方面で活躍できる人材育成
  - ・10月に救急救命東京研修所を卒業する職員の卒後フォローアップ、及び訓練の充実を図る。
  - ・新規機関員養成・・・A級(大型車)2名、C級(普通車)1名
- (2)働きやすい職場環境の構築と安全確実な業務の遂行
  - ・訓練前の資器材、施設の点検、訓練後のフィードバックにて安全管理の徹底と再確認を行う。
  - ・PC保存データの整理を行い、情報管理を徹底する。
- (3)災害に強いまちづくり
  - ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検討を実施する。
  - ・大規模な火災につながる危険性の高い地域の調査を進める。
  - ・管内林道調査を実施し、消防戦術の検討を実施する。
  - ・住警器設置状況を精査し、効果的な広報にて設置率向上を目指す。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)多方面で活躍できる人材育成
  - ・今年度1名が救急救命東京研修所を卒業し国家試験を受験。
  - ・新規機関員養成についてはA級(大型車)2名、C級(普通車)1名が認定。次年度は認定者の適正な運用と、新規養成者に向けての指導教育が必要となる。
  - ・特別救助隊員として3名が認定。
- (2)働きやすい職場環境の構築と安全確実な業務の遂行
  - ・安全運行・車両誘導訓練・交通事故防止のミーティングを強化し再発防止を徹底した。今後も継続する必要がある。
  - ・PC保存データの整理を行い情報の管理と共有を徹底した。安全で迅速な作業が図られている。
- (3)災害に強いまちづくり
  - ・火災多発期に警戒巡回及び焼却行為に対する指導を強化したことにより、発生件数の減少が図られた。
  - ・今冬の豪雪に伴い、水利の除排雪を計画的かつ状況に応じて実施した。
  - ・住警器の設置率向上に向け調査・広報を実施。新型コロナウイルス感染拡大に伴い調査数は減少したものの、今後もより効果的な広報活動を実施する必要がある。

令和3年度

## 消防署 山内分署の方針書

組織名	消防署 山内分署
所属長名	佐々木 馨

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

迅速・確実・安全な災害対応で市民を護る

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、複雑多様かつ多種危険の災害現場に対応できる知識・技術の向上及び消防力の強化
- 2、職員による各種事故の撲滅
- 3、心身共に充実できる職場づくり

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
- 2、各種教養・技術の向上と、チームワーク強化による災害に強いまちづくり
- 3、ハラスメントの根絶と健康管理の徹底による充実した職場づくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知力の習得により事故ゼロを目指す 2、車両及び資器材の管理と整備の徹底 3、適正な事務処理の遂行
(2)	実現したい成果	各種教養・技術の向上とチームワーク強化による災害に強いまちづくり
	取組内容	1、災害現場指揮を任せられる隊長の育成 2、各種訓練の継続による消防力・指導力の強化及び絶対的なチームワークの構築 3、火災予防の推進(住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正) 4、消防団との連携強化
(3)	実現したい成果	ハラスメントの根絶と健康管理の徹底による充実した職場づくり
	取組内容	1、ワークライフバランスの実現(時間外勤務の縮減と年次休暇の取得) 2、報連相を徹底し、悩みを抱え込まない・気付きのできる職場環境 3、健康管理の徹底 4、健康で明るく、清潔な職場づくり(挨拶の励行・整理整頓)

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
  - ・毎朝のミーティング時にヒヤリハットの共有を行い、公私にわたり各種事故防止の徹底を図っている。
  - ・訓練時は、事前確認から終了後までを見据えた打合せをし、確実な危険予知と安全管理を実施している。
  - ・資器材管理簿を基に定期的に管理確認し、資器材使用後には適正な整備を実施している。
  - ・事務処理について、係員複数による確認を実施して完結とし、処理上のミスが無いようにしている。
- (2) 各種教養・技術の向上とチームワーク強化による災害に強いまちづくり
  - ・隊長級育成に主眼を置き、災害現場でのチームワーク強化を意識した教養訓練を計191回実施している。
  - ・管内に存在する重大な消防法令違反対象物の改善を完了した。住宅火災警報器設置率向上については新型コロナウイルスの影響もあり、個別での家庭訪問を自粛したため、62件実施し改善6件にとどまっている。
  - ・消防団との合同訓練については新型コロナウイルスの影響もあり、2度の実施にとどまっている。
- (3) ハラスメントの根絶と健康管理の徹底による充実した職場づくり
  - ・年次・夏季休暇の取得は出来ているが、分署員の人数が少ないため、特に家族の急な介護休暇時等の際に非番員等の招集で対応せざるを得ないケースが発生している。
  - ・各職員が、普段から同僚の体調や心理的な不調の有無に注意を払い、コミュニケーションを大切にしている。
  - ・毎朝ミーティングでハラスメント・不祥事の根絶について確認し合い、横手市職員の自覚を再確認している。
  - ・各自が日常的に自己の健康管理に気を付けている(再検査受診率100%)。また、職員間のみならず率先した挨拶の励行と職場の清掃・整頓を徹底し、心身共に健康な職場環境構築を心掛けている。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
  - ・毎朝ミーティング時のヒヤリハットと、活動後、訓練後の振り返りによる各種事故防止の徹底を継続する。
  - ・活動時・訓練時における確実な危険予知・安全管理の徹底と、使用資機材の適正な整備の継続する。
  - ・適正な事務処理と、ミスゼロの継続。
- (2) 各種教養・技術の向上とチームワーク強化による災害に強いまちづくり
  - ・隊長級育成、チームワーク強化を主眼に、応用的な訓練取り入れることで更なる向上を目指す。
  - ・地域防災の観点から、重大な消防法令違反対象物の発生を防ぐ。また、今後の農繁期の警戒巡回、降雪期の水利除雪について遺漏なきよう取り組む。
  - ・消防団との合同訓練、住宅用火災警報器設置率向上については、新型コロナウイルスの対策の動向を注視しつつ可能な範囲で実施していく。
- (3) ハラスメントの根絶と健康管理の徹底による充実した職場づくり
  - ・毎朝ミーティングでの事故防止徹底・ハラスメント・不祥事の根絶確認を継続し、横手市職員の自覚を保持する。
  - ・健康被害は全体に影響を及ぼすことを念頭に、互いに気づき合い、心身共に健康な職場環境構築を継続する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
  - ・毎朝のヒヤリハットと、活動後、訓練後の振り返りを徹底し、行動前に全員で危険要因の確認と防止対策を図ることで、各種事故ゼロを達成できた。恒久的に継続を図っていく。
  - ・各自が公私にわたり、全般的な危険予知・安全管理を徹底することにより危険予知力を高められた。無事故が活動の基本であることの意識付けを強めて、継続・向上を図る。
  - ・使用資機材の適正な整備点検を実施したことで、各種活動・訓練・施設管理も充実した。資機材あつての有効活動となるので、これらの継続を各自が習慣付けしていく。
  - ・事務処理におけるチェックを2重3重にすることで、事務ミスゼロ継続できている。複数でのチェックを徹底し、通年継続する。
- (2) 各種教養・技術の向上とチームワーク強化による災害に強いまちづくり
  - ・隊長級育成、チームワーク強化を主眼とした訓練の積み重ね、また応用的な訓練を取り入れることで各自がスキルアップを自覚できた。A級機関員資格取得者2名。各種教養訓練を計302回実施、今後も継続して自己研鑽を積む。
  - ・管内に存する重大な消防法令違反対象物1件については早期に改善に至っている。また立入検査による適正な指導をすることで新規重大違反の発生は生じていない。今後も定期的な検査を通じて法令違反対象物ゼロを目指す。
  - ・こまめな警戒巡回を実施することで年度内管内無火災に至っている。今後も業務出向時等を含め、警鐘を鳴動しながらの火災予防啓発を励行していく。
  - ・消防団との合同訓練は2回にとどまっている。住宅用火災警報器の設置については新たに19世帯に設置した。新型コロナウイルス蔓延状況よりの充実した成果達成が困難であった。今後の動向を注視し効果的な方策を模索しながら実施していく。
- (3) ハラスメントの根絶と健康管理の徹底による充実した職場づくり
  - ・毎朝ミーティングで時間をかけて、事故防止徹底・ハラスメント・不祥事の根絶確認を継続した。また、登庁後の職員のアルコールチェック及び免許証確認を徹底して実施している。今後も普遍的に継続し、横手市職員の自覚保持を徹底する。
  - ・各自が日常的に自己の健康管理に留意している。全員が年間5日以上休暇を取得し心身の休息を図った。また検診における再検査受診率100%を達成。他に、率先した挨拶の励行と職場の清掃・整頓を徹底し、心身充実の職場環境構築ができたと同様に、今後も各職員が相互に気づき合い、相談できる風通しの良い職場環境づくりを心掛けていく。